

科目名称 (Course Title)				担当教員 (Instructor)	
専門研究 I				篠原 正人	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	3 年次	演習	有 (連絡済)	
授業の概要 (Course Description)					
<p>地域経営学的一端として「港湾経営」を扱う。  北近畿地方には大港湾はないが、舞鶴港をはじめとして特徴のある地方港湾が存在する。  それらを学習の材料として、港湾都市経営の現状と課題を学ぶ。  港湾には「物流」と「人流」を扱う二種類の機能がある。物流では輸出入貨物や移出入貨物の海上輸送  起点・終点として、陸側との結節点の役割を果たしている。人流は、クルーズ船で近隣アジア諸国から  の観光客が港湾を多く訪れることで、最近脚光を浴びている。  これらを総合して、港湾を管理する行政がどのような利用計画を立て、地元経済界との連携の基に施策  が打ち出されているかを学び考察する。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>港湾都市で起きている事柄を理解できる。  港湾の管理がどのようになされているかを理解できる。  港湾における諸産業の概要が理解できる。  北近畿の港湾の概要が理解できる。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	港湾とは：その機能と役割①				
第 2 回	港湾とは：その機能と役割②				
第 3 回	日本の港湾：大港湾				
第 4 回	日本の港湾：中規模港湾				
第 5 回	日本の港湾：小規模港湾				
第 6 回	物流の機能				
第 7 回	港湾と物流				
第 8 回	クルーズビジネス				
第 9 回	港湾とクルーズビジネス				
第 10 回	海外の港湾 (物流)				
第 11 回	海外の港湾 (クルーズ)				
第 12 回	港湾の親水機能				
第 13 回	北近畿の港湾の特徴①				
第 14 回	北近畿の港湾の特徴②				
第 15 回	専門研究IIへの課題				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>舞鶴港等見学  日本経済新聞を毎日読むこと。  経済雑誌を読むこと。  PowerPointを使ったプレゼン方法の習得。  論文の書き方習得。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
ゼミへの貢献度 (50%) 課題提出内容 (50%) を基本とする。  10回以上出席を単位付与の条件とする。	秀：学んだ専門用語を駆使して、論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点の解決方法を指摘できている 優：キーワードを用いながら論理的・客観的な説明ができ、かつ、問題点を理解している 良：おおよその説明はできており、問題点を理解している 可：港湾経営とは何かを説明することについて、最低限の水 準を満たしている 不可：学習の意欲がなく、学んだ内容を説明できない
テキスト (Textbook)	【書名】 「海運と港湾－基礎から学ぶ」 【著者】 池田良穂 【出版社】 海文堂出版 【出版年】 2017
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	「港湾政策の新たなパラダイム」篠原正人、成山堂 国土交通省港湾局のウェブサイト 各港湾のウェブサイト その他、ゼミの中で適宜指示する。
備考 (Other Information)	欠席は厳禁。専門研究は社会に出る準備として、極めて重要な位置を占めると理解すること。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	shinohara-masato@fukuchiyama.ac.jp